

環境への取り組み <身近な水生植物の有効利用>

葦は湿地帯に分布する背の高いイネ科の草の一種であり、水質の浄化に貢献します。この葦は、「ヨシズ」などの生活用品の原料として、古くから日本人の生活に密着していました。しかし、時代と共に需要が減少し、刈り取られなくなった葦は、冬には枯れて腐り、逆に水質汚染源となっています。

県立津山工業高等学校工業化学科では、定期的に刈りとることで汚染を防ぎ、さらに、刈りとった葦の新しい利用法を確立することで葦原との共生を目指しています。(写真の葦刈り作業は岡山県環境管理課との協働事業です。)

